

日本性科学会 ニュース

第27巻第3号

平成20年(2008年)9月

発行人：大川 玲子 印刷所：(株)絵文社

第28回日本性科学学会 / 第10回性科学セミナー

会期：2008年10月4日(土) 13:00～17:00 第10回性科学セミナー
10月5日(日) 9:00～16:30 第28回日本性科学学会学術集会

会場：芝蘭会館稻盛ホール
京都市左京区吉田近衛町京都大学医学部構内 Tel: 075-753-9336

学会長：菅沼信彦(京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻教授)

参加費：性科学会学術集会 5,000円(学生1,000円)
性科学セミナー 3,000円(学生1,000円)
性科学会学術集会+性科学セミナー(2日間) 7,000円(学生2,000円)

メインテーマ：「男と女の間には…」

特別講演I：スカートの中が見える時～性欲の文化論～

国際日本文化研究センター教授 井上 章一 先生

特別講演II：「性」をとりまく社会的問題と政治

衆議院議員 阿部 俊子 先生

会長講演：男と女の間には…インターネット～30年間の医学的自分史～

京都大学大学院医学研究科教授 菅沼 信彦

シンポジウム：マイノリティにおけるセクシュアリティ

・ゲイ男性のセクシュアリティ

関西医療大学 日高 康晴 先生

・性同一性障害者の性行動

はりまメンタルクリニック 針間 克己 先生

・ターナー女性が語る、自分の性にまつわるトリロジー～過去・現在・未来～

ひまわりの会 中野 明子 様

・障害のある人のセクシュアリティ～性のノーマライゼーションとは～

愛知淑徳大学医療福祉学部 谷口 明広 先生

*お問い合わせ先

〒606-8507 京都市左京区聖護院川原町53 京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻家族看護学講座内
第28回日本性科学学会事務局 事務局代表電話/ファックス：075-751-3971(担当：山口、清川)
eメール・アドレス：jsss28@hs.med.kyoto-u.ac.jp
ホームページ：<http://fb.hs.med.kyoto-u.ac.jp/jsss28>

学会長直通電話/ファックス：075-751-3912

*日本産科婦人科学会専門医シール・日本産婦人科医会シールを発行します。

Vol. 27

日本性科学会

〒107-0062 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

No.

3

〔性症例研究会から〕

訪問介護利用者の性行動に対する介護職員の意識と対応

田園調布学園大学 荒木 乳根子

訪問介護の現場では、利用者の性的な行動に対して、ヘルパーが対応に苦慮する状況が少なからず生じている。筆者らは財団法人フランスベッド・メディカルホームケア研究・助成財団の研究助成を受けて、女性ヘルパーを対象にアンケート調査を実施した。女性ヘルパーが経験する男性利用者の性的行動の内容、それに対するヘルパーの感情、対応、他者への相談などについて明らかにし、望ましい対応やサポート体制について検討することが目的である。今回、調査結果がまとまったので、研究会では報告書を資料に説明を加え、参加の先生方からご意見をいただいた。

【調査の概要】

調査時期：2007年11月～2008年2月

調査対象：川崎市および横浜市のホームヘルパー 有効回答数435（回収率16.6%）

調査方法：訪問介護事業所にヘルパーへの調査票配布を依頼し、回答者からは直接返送してもらった。

結果：

回答者の多数を占めるのは中年女性で、ヘルパーとしての経験年数は比較的長い。99.7%が現在、男性利用者を担当しており、そのうち19.1%は性的働きかけがあると回答。過去に男性利用者から性的働きかけを受けた経験がある人は40.7%だった。経験者の割合が多いが、事業所の管理者が調査内容に関する問題を抱えたヘルパーに依頼した可能性がある。

現在または過去に性的働きかけを受けた回答者には2事例まで内容を記載してもらったが、事例を記入した回答者は199人(45.7%)で、事例数は304だった。

事例の利用者は70歳代、80歳代が多く、6割には認知症がなく、半数は独居であった。

性的働きかけの内容はさまざまであるが、もっとも多いのは「体について品評、性体験を聞く、性的からかいの言葉をかけたなど」の3.5割だった。「体をじろじろ見た」、「自分の性体験や卑猥な内容の話を聞かせた」も比較的多い。体へのタッチは「介護の際に必要以上に体を接触してきた」約3割と微妙のものが多いが、「わざと胸やお尻、股間を触った」「抱きつかれた」も2.5割近くあり、「性交渉を求められた」人も約1割いた。また、利用者に好意をもたれて「好意を告白等」された人、「結婚してほしいと求められた」人もいた。

そのときのヘルパーの感情としては、「男だな、という思い」が4.5割でもっとも多い。また、「どんな風に反応したらよいのかという疑問」や「故意かどうか、という疑問」多くのヘルパーが抱いている。問題なのは3割近くが「嫌悪感、怒りなど利用者への拒否的な感情」を抱き、1～2割が「恐怖感」や「異常・変態という思い」をもつたことであろう。

その後の感情も聞いたが、2～3割が利用者に対する否定的な感情をもち、担当を辞めたいと思うようになり、また、同様のことが生じたらという不安をもつようになった、と訴えている。一方で、やはり2～3割が「高齢者にも性的欲求があるのだから自然なことだ」、「どのような気持ちから性的行動をとったのかと考えた」、「自分への関心をうまく介護に生かしていきたい」と回答しており、拒否的感情が強い群と比較的許容的な群に2分されるようだ。

とっさの対応では「明るく冗談、ユーモアで応えた」、「さりげなく流した」が5割前後で抜きん出て多い。次いで「違う話、事柄に変えた」、「はぐらかした」であるが、2割強は「止めてくださいなど」自分の気持ちをはつきり伝え、「とっさに避けた、逃げた」は1割強に過ぎない。感情はどうであれ、対応としては利用者に強い拒否を示さない配慮が感じられる。その後の対応でも「さりげなく」、「冗談、ユーモア」が多いが、3割近くが「隙を見せないようにした」、「触られないよう介護のやり方を工夫」しており、「担当を辞めた」人も1割弱いた。

この問題について8割以上のヘルパーはサービス提供責任者や同僚などに相談しており、7割近くは相談してよかったとしている。しかし、少数だが、気持ちを受け止められず、「受け流して」など言われ傷ついた人、相談できなかった人たちがいる。

紙数の関係で、ここでは実態だけの記載になったが、ヘルパー自身の考える改善策の回答や自由記述からは、望ましい対応やサポート体制について、さまざまなポイントが見えてきた。内容はヘルパー自身の服装、化粧、態度から、利用者への接し方、利用者の性への理解と対応、サービス提供責任者が行うべきサポート体制などに及ぶ。

【研究会での討議を踏まえて】

話し合いによって、さらに検討を深めるべき点が見えてきた。
①何を「性的働きかけ」というか、孤独感・人恋しさからの行動と思える場合も多々あり、セクハラとしかいえない行動と分けて考える必要がある。
②質問項目にある性に対する一般的な考え方、性についての学習の有無等が、利用者の性の受け止めとどのように関連しているか。
③マニュアル作りは難しいにしても、典型例の事例集でも作り参考に供すべき…など。

セックスカウンセリング考

大阪市中央区 岩佐クリニック 岩 佐 厚

私は、大阪市内にて泌尿器科単科でビル診療をして14年が経ちました。

カウンセリングの必要性を感じたのは、男性性機能障害患者を診ているうちにパートナーとの関係を修復しなければどうしようもないことを痛感したからです。

そして、性科学会研修会を受講させていただき勉強しながら、セックスカウンセリングを恐る恐る開始いたしました。

当時は、ED治療薬がなく行動療法が中心で治療に大変苦労したことを覚えています。

その中で、速攻の治療を要求されたことがありました。前日に大阪市内のホテルで結婚披露宴を終えて新婚旅行に飛び立つその直前に、当院の待合室に新郎、新婦、新婦の母親の三人が並んだことがありました。母親の「先生！知り合ってから1年間も何もないっておかしいですよね。いや、絶対おかしい。異常やわ」といった言葉が大変印象深く耳に残っています。その時は「結婚までは何もしないという男性のほうが、昔ながらでいいじゃないですか」と苦し紛れに答えた記憶があります。治療にある程度時間のかかるなどを説明し帰国後の再診を勧めましたが、再診していないことを考えると「閑空離婚」になったのではないかと考えます。

その後、これまでのカウンセリングを振り返るとその時の母親の「知り合ってから1年間も何もない…」というような事が実は未完成婚の患者のカルテに多くみられることことに気付きます。

クライアントのパートナーたち（主に妻ですが）は「普通のカップルであれば何にも苦労しないことが、私にとってはとんでもないことである。何もしないからおかしいなと思ったときに、結婚しないことを決断すべきであった」と後悔します。特に、見合い結婚の時は尚更です。「浮気癖のある男性と恋愛したことがあり懲りていたし、夫のことを優しい良い人だと思ったから見合い結婚したのですが」。変な時代になったものです。というか、昔からもこういうことはあったのでしょうか。

ここ数年、不妊治療をされている産婦人科からの紹介のクライアントが大変多くなりました。不妊の原因が、未完成婚であったりセックスレスであったりするからです。

夫は意を決して自宅の近くの医療施設を受診するようですが「気分転換に温泉にでも行ったら」とか「気にしそぎだから、すぐに治るよ」とED治療薬だけ持たされていなされます。そして、そのまま時間が経ってこじれた状態で当院にやってきます。忙しい外来の間にいきなり「未完成婚」の話をされては医師のほうが気の毒な感じもしますが「私には対応ができない」とはっきり言ってもらったほうがクライアントや家族も幸せな感じがします。

先日お越しになったクライアントの妻は、「以前夫がかかった病院も男性の医師で女性側のことはわからないし、男性の味方であるから話をするつもりはない」と言われました。が、ゆっくりお話を聞き、「セラピストは方向付けや手助けをするだけで、実際に治療に取り組むのはお二人です」ということを納得されカウンセリングを続けておられます。

また、別の未完成婚のカップルですが、3回目のカウンセリングで産婦人科医から人工授精を視野に入れた精液検査用の「採精」をしてくるように言われ、うつぶせでペニスを圧迫することで射精が出来ないことがわかりました。私の聞き取りの甘さを反省しつつも、最近、マスタベーションを普通？に出来ない、あるいはほとんどしない若者が増えている感じがします。

日々思いますことは「性科学会」がもっと世間に認知され会員が多くなりクライアントが「回り道」をしなくて良いようになればと願います。そのためには、さらに広報活動に力を入れていただけたらと存じます。泌尿器科医が多く入会している日本性機能学会の専門医の更新ポイントに「性科学会」が入っておりますが、私の後輩達は「ややこしい時間のかかる患者は岩佐に紹介すればいいや」と思っているようです。関連学会で「カウンセリングのテクニックを勉強すれば外来診療のスキルアップになる」ことを積極的にPRしていただきたいと思います。

手前味噌になりますが、社団法人 日本泌尿器科学会が医学生および臨床研修医に泌尿器科学を理解していただくための冊子「泌尿器科医を目指そう」の最新版に執筆する機会がありました。オフィスウロロジーがテーマでしたがその終わりに「EDカウンセリングをライフワーク」として「日本性科学会」のセックスセラピストを通して手術をしない泌尿器科医が何をライフワークとして日々診療しているかを書かせていただきました。

本年2月24に東京から大川玲子先生や多くの先生をお迎えしての近畿地区の研修会が初めて開催されました。恥をかくつもりで症例を提示させていただきましたが、再度症例を見返すことが出来て大変勉強になりました。

東京でされているような症例検討会を近畿でも定期的にしていただけましたら、日々、徐々に偏っていく個人のスキルが矯正していただけると考えます。

後日談ですが、大阪での研修会の症例患者さんが研修会の翌週に5年ぶりに来院されました。研修会で「第1子が出来たら以後再診しません。それが問題点です」と締めくくった直後でしたのでびっくりしました。第2子を希望してED治療薬を希望しての来院とのことでした。妊娠してからは5年間夫婦生活がなかったようです。

とりとめのないことを書き綴りましたが、今後とも、ご指導たまわりますようお願いいたします。

第37回性治療研修会の報告

日本性科学会 幹事 大谷 真千子

平成20年5月11日（日）に行われた第37回性治療研修会についてご報告します。

本年度の参加者数は、理事・役員を含め80名でした。以下、アンケート結果の概要をご報告します。

- ✓ アンケートにお答えいただいたのは35名（会員36名、一般9名）で、職種の内訳は表1のとおりです。

表1. Q：あなたの職種は？（数値は実員数、n=35）

	医師	臨床心理士	看護職	教育・研究	その他	合計
会 員	14	3	4	2	4	27
一 般	1	2	2	1	2 (学生)	8
合 計	15	5	6	3	6	35

- ✓ 今年の5つの講演に対する評価の一部を表2に示します。

特に「認知行動療法の基礎」「性治療への応用（症例を通して）」は、参加者の関心も高く、「役立つ」との評価を得ることができました。

表2. Q：それぞれの講演は役立ちましたか？（n=35）

講 演	はい	ややはい	どちらともいえない	ややいいえ	いいえ	無回答	合 計
GID 性別適合手術を受けるものの周手術期ケア	49%	31%	14%	0%	0%	6%	100%
生殖補助医療における倫理と法	40%	29%	29%	0%	0%	3%	100%
男性の健康とテストステロン	57%	34%	3%	6%	0%	0%	100%
認知行動療法の基礎	57%	26%	9%	3%	0%	6%	100%
性治療への応用（症例を通して）	63%	20%	3%	3%	0%	11%	100%

- ✓ 今後取り上げてほしいテーマについては、以下のようなご要望がありました。

- ・性犯罪、性嗜癖の問題
- ・高齢者の性、介護領域でのセクシャリティに関する話題、障がい者の性
- ・薬の副作用と性障害
- ・S R S（性別適合手術）の詳細、術後のフォローなど
- ・生殖補助医療、生殖カウンセリング

アンケートにご協力いただいた皆様に、心よりお礼申し上げます。

今後とも皆様からのご意見、ご要望を活かして研修会を発展させたいと考えております。

日本性科学会役員

（前号ニュースに掲載された役員担当の一部変更が理事会で承認されましたので、改めて役員一覧を掲載いたします。）

名譽理事長（顧問）	松本 清一	（社）日本家族計画協会会長 群馬大学・自治医科大学名譽教授
名譽副理事長（理事）	野末 源一	村上学園総長 山王病院産婦人科
理 事 長（国際関係担当）	大川 玲子	国立病院機構千葉医療センター外来管理部長・産科医長
副理事長（認定制度・総務担当）	阿部 輝夫	アベメンタルクリニック院長
常務理事（学術担当）	武田 敏	千葉大学名誉教授
理 事 倫理担当	石津 宏	琉球大学名誉教授
倫理担当	塚田 攻	埼玉医科大学かわごえクリニック神経精神科講師
財務担当	堀口 貞夫	主婦会館クリニックからだと心の診療室院長
財務担当	村口 喜代	村口きよ女性クリニック院長
学術担当	永井 敦	川崎医科大学泌尿器科教授
広報担当	川野 雅資	東京慈恵会医科大学医学部看護学科精神看護学教授
広報担当	亀谷 謙	亀谷メンタルクリニック院長
研修担当	石河 修	大阪市立大学大学院医学研究科・医学部女性病態医学講座教授
研修担当	金子 和子	日赤医療センター臨床心理士
参 監 与 事	高波真佐治	東邦大学医療センター佐倉病院泌尿器科教授
幹 事 長（総務・JFS担当）	本多 洋	三井記念病院総合検診センター嘱託
副幹事長（研修担当）	長田 尚夫	聖マリアンナ医科大学泌尿器科元教授
倫理担当	針間 克己	はりまメンタルクリニック院長
財務担当	茅島 江子	東京慈恵会医科大学医学部看護学科教授
学術担当	矢島 通孝	やじま泌尿器科クリニック院長
学術担当	大谷 真千子	千葉県立衛生短期大学教授
広報担当	高橋 都	東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻講師
広報担当	山中 京子	大阪府立大学人間社会学部社会福祉学科准教授
研修担当	杉山 正子	すぎやまレディスクリニック院長
研修担当	石丸径一郎	国立精神・神経センター・日本学術振興会特別研究員
事務局長 顧 問	森村 美奈	大阪市立大学大学院医学研究科卒後医学教育学講師
名譽会員	本郷 元夫	新医学普及協会理事
	長池 博子	長池産婦人科医院名譽院長
	斎藤 宗吾	三聖病院名譽院長
	熊本 悅明	財団の健康医学財団会頭 札幌医科大学名誉教授
	玉田 太朗	自治医科大学名誉教授
	廣井 正彦	山形大学名誉教授
	山崎 高明	山崎産婦人科医院院長
	菅沼 信彦	京都大学大学院医学研究科人間健康科学系教授
	塚田 攻	埼玉医科大学かわごえクリニック神経精神科講師
第28回日本性科学学会会長		
第29回日本性科学学会会長		